

与謝野晶子と裏磐梯

晶子が泊まった場所(裏磐梯高原ホテル)
から見た裏磐梯

晶子住まい跡にある
東京都杉並区の公園



湖沼^{こせう}ども柳葉^{やなぎば}翡翠^{ひび}竜胆^{すめりだう}のいろ鴨^{つぎ}跼^{くさ}の青を
ひろぐる
醜^{みにく}くて瘧^{さつ}か^と見ゆる沼^{くさ}のあり他の百の沼勝^{かち}れ
たるため
五色沼^{ごしきくさ}いくつ^の色をしか呼^よべど数^{かず}を知^しれるも
あらぬ沼^{くさ}かな

与謝野晶子(あきこ)は、福島県の会津へ2度来ています。

1回目は、明治44年8月会津若松市の東山温泉新瀧楼(新瀧)へです。

2回目は、与謝野鉄幹の一周忌にあたる昭和11年9月、会津若松の森芳介・愛子兄妹の招きで来ました。9月4日、猪苗代長浜の鳥万ホテルに宿泊。5日、裏磐梯に入り9首歌を詠みました。その日は、裏磐梯高原ホテル前進の別荘に宿泊しました。別荘は、若松の宮森太左衛門・遠藤十次郎(新横町の滝口太右衛門の12男で醤油屋)のものでした。6日、猪苗代に出て、東山温泉の向瀧に宿泊しました。7日、鶴ヶ城や御薬園、会津女子高等学校(現葵高校)で講演をします。その日は森家に宿泊。10日には帰京しました。昭和15年には、晶子を招いた森芳介と晶子の6女藤子が結婚しています。晶子は、昭和17年5月29日に死去しました。昭和17年の晶子の遺稿集「白桜集」に会津詠草として裏磐梯の歌が収められます。

与謝野晶子と鉄幹の住まい跡は、東京都杉並区南荻窪4丁目の「南荻窪中央公園」です。杉並区と北塩原村は、保養地協定を結んでいます。

文責 石田明夫